

BBQ大会

Y・K

恒例の秋の大バーベキュー大会に参加しました。当日は、暑いくらいの晴天でしたが爽やかな行楽日和。私の席は1番テーブルでした。しかし、遅刻したうえ、ほとんどの時間を他のテーブルで過ごしてしまいました。1番テーブルだった皆様すみません。

バーベキュー大会には数年前から毎年参加させてもらっています。運営に携わる役員の方々やボランティアの皆さんが忙しく働くのをしり目に、いつも楽しんでばかりの私でした。が、今年は縦横夢人に寄稿することになりました。

頸損連絡会のイベントには、これまでも多くはないですが参加しており、人との交流のほか情報収集を一番の目的に参加していました。私が頸損になったのは約20年前、ラグビーをしているのケガでした。その当時の私は目先の衣食住をはじめ、将来のことまで課題が山積の状態でした。あらゆることに不便を感じていましたが情報収集等の機会はあまりなく、こうした集りの果たす役割は大きいです。今でも参加することでいろいろな人からいろいろな体験談等を見聞きし、自分もこんなふうの人に話せる体験を積んでいかなければと、前向きな気持ちになります。

ここ数年、在宅で生活するための選択肢は増え、便利になってきています。公共の交通機関等の移動手段や、旅行の際の宿泊も良くなってきました。確かに不自由はつきもので、ひと昔前にあった違和感を未だに受けることもありますが、良い方向へ変わっていくのはありがたいことです。

毎年参加するバーベキュー大会でも、年々変わってきているなど感じるいろいろなあります。そのひとつは、ボランティアに来てくれている学生さんたちをはじめ、若い世代の障害者に対する認識が変わってきているということです。物理的なハード面のバリアフリーに対し、ソフト面のバリアフリーともいえる世間の理解が進んできているなど。世間の認識は少しずつ変わり、若い人たちがこれから活躍していく世間はもっと変わっていくのでしょうか。

障害を受けて間もないころの私は、混雑するエ

レベーター内で乗り合わせ子供たちの、車いすを見詰める熱い視線にプレッシャーを感じたものです。また、街の中にスロープが少なかったころ、スロープは良くも悪くもやや目立つ異質な存在でした。そのスロープを使う自分も異質な存在なのか？と、被害妄想的な感情もありました。そう感じていた一方、スロープで遊んでいる子供たちを見かけては、スロープが楽しいのかな？不思議に思いながら、そして、自分がスロープを上る一部始終、やはり子供たちから熱い視線を受けるのです。自分にも緊張や構えがあったのかもしれませんが。今では興味津々にこちらを見詰める子供たちに、こちらから声をかける余裕もあります。

若い皆さんは幼少のころ、車椅子を見かけたことはあるのでしょうか？見かけたことがある人は、その時どんな思いだったのでしょうか？私は残念ながら、自分が車椅子に乗るまで、車椅子を見たという記憶がありません。もしかしたら、私が見かけたかつての子供たちは、若い皆さんの中にいるのではないのでしょうか？これは、来年のバーベキュー大会に参加して、聞いてみたいと思います。来年も、この先も、秋の大バーベキュー大会が、恒例のイベントとして続いていってほしいと思います。

8月に東京でラグビー日本代表戦を観戦。この時は日本がW杯であんなに活躍するとは…。

